

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800907		
法人名	名谷ホーム有限会社		
事業所名	グループホーム わたつみの里		
所在地	兵庫県神戸市垂水区陸ノ町994 - 1 (電話) 078 - 705 - 0101		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 2 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(320,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	14 名	男性	0 名	女性	14 名
要介護1	0	要介護2	5		
要介護3	2	要介護4	4		
要介護5	3	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大澤病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

かつての地名、海神(わたつみ)から名づけられた「わたつみの里」は、垂水駅から商店街を通り徒歩7、8分の場所に位置している。地域は商店街を中心とし、住宅や医院が周辺にあり、便利な生活域となっている。利用者が馴染みである商店街の近くにホームを造りたいとのこだわりから、この地を選んだ。ゆったりと過ごせられるようにと15名の定員とし、廊下・居室も広い空間としている。開設当初は1階部分でデイサービスを運営していた為、リハビリやレクリエーションができる広いホールもある。このホールを地域の人達へ貸し出したり、ほぼ毎日商店街への散歩を行うことが、地域との交流やリハビリにつながり、ホームと利用者が地域の一員として暮らせることを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	充実した医療面での体制づくりへの取り組みがされていた。病院との契約により医療連携体制の実施が行われている。2週間に1回の往診や急変時の夜間連絡と入院が可能など大きな安心に繋がっている。受診を勧める上で、家族の状況に応じたコミュニケーションの必要性も感じている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	施設長と主任を中心に自己評価が進められており、他のスタッフも確認している。自己評価を行うことにより、開設から5年にしてようやく地域に受け入れられてきたと再認識できることや、書類整備の機会として前向きに評価を捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われており、利用者、家族からの意見を聞き検討されている。地域包括支援センターの職員が参加することもある。議事録に評価・要望・助言の項目別欄があり、分かりやすく、課題が明確にもなりやすい。今後も一層、実りある会議となるよう、多くの家族の参加や行政の参加を募って貰いたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	状況変化の際や受診時には、細やかな電話連絡が行われている。また、面会時には、写真を見せながら、日々の生活の様子や金銭管理について伝えている。家族からも面会時に要望を伝えてくれているため、出来る範囲で応えている。今後は遠方の家族にも配慮して、定期的に行事の予定を知らせたり、出納帳のコピーを送付することを検討して貰いたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	利用者の日常的な散歩では、地元の人とお互いに挨拶を交わし、商店街は良き交流の場所にもなっている。自治会からは行事の度に案内があるも、参加できないことが多く、その分は地域のボランティアが来所してくれて交流もできている。内容は、カラオケ教室やメイクアップなど多彩である。週に1回は講師を招いて、リハビリ健康体操、音楽療法があり、認知症の進行予防にも繋がっていると思われる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは平成15年6月の開設時に、この地域が利用者の馴染みである商店街の近くであるとのこだわりから造られ、理念も実践を目的に分かりやすいものと職員がつくり上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長、介護主任を中心に職員は理念を共有・実践し、日々取り組んでいる。理念は事業所内に掲示し、カンファレンス時に確認されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのパイプ役として、自治会長兼婦人会長を運営委員会の委員に迎え、地域からの行事の招待を受けたりして、連携を図っている。また、ホームの1階を会議のために開放したりして、徐々に地域との交流もできつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価での「鍵をかけないケアの実践」についての改善は継続されているが、今年の自己評価では、利用者の思いを代弁できる終末期の対応の再確認と家族との接し方などの気づきがあり、今後取り組む意向である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	現状では会議が報告等のみになり、出席者への情報提供は行われているが、サービスの向上にまでは結び付いていない。しかし、2ヶ月に1回の開催は行われている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	区役所の介護保険の担当者も運営推進会議には出席しているが、区行政のグループホームへのかかわりは薄く、事業所側からの働きかけにも明確な回答が返らないことがある。ただし、生活保護担当者とは密接な連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム利用料の請求書は月々送付しているが、状況報告等は面会時の対応と電話連絡が中心である。しかし、要望があれば、会計の明細・領収書等の送付にも応じる。また、電話連絡が中心であるため、家族の不在時等は家族からその都度連絡が入る。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族等の意見は、面会時や電話等での会話の中で聞き取りを行っている。家族会が結成されているも、その機能が果たせていない。このため、家族等からの意見が運営にはほとんど活かされていない。		事業所の理念である、『利用者と家族が主体』から考えても、事業所と家族の信頼ある連携が必要であり、利用者の日々の安心できる生活支援に繋がる。結成されている家族会の役割と機能を理解して活用していただきたい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	開設後のしばらくの間は退職等、職員の異動もあったが、最近はほとんどない。また、代わる場合も、利用者からは影響のあるような言葉も聞かれず、また利用者のほうが頼もしい場合もあり、その都度の配慮で対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修は、その都度職員に案内し、希望に沿って受講できるように援助している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は同業者との意見交換や交流を通じて、サービスの質の向上に積極的に努めている。しかし、神戸市内ではグループホームの連携が行政主導で積極的に行われているものの、垂水区内は消極的でその取り組みができていない。		事業所からの働きかけを継続していただき、垂水区内の他のグループホームとの交流や情報交換ができることを期待したい。同時に、市内・区内をはじめ他の同業者との職員の交流や参加も期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居調整は施設長が担当し、本人、家族納得の上で入居してもらっている。入居後は共同生活のメリットを活かし、他の利用者から積極的なかわりをもって頂けたり、また施設長や職員も声かけを多くして、馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の話を常に聞く姿勢で接し、利用者も穏やかに話ができている。また、職員は、利用者一人ひとりの日々の話から、人柄や生活歴を聞き取り、その人にあつた対応ができている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者は施設長への信頼が大きく、直接に思い等を伝え、それを基に職員全体で取り組みを検討し、具体化するように対応している。屋上の菜園も取り組みから実現できた。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前から本人、家族、必要な関係者と話し合い、思い等を聞き取り、介護計画に反映させている。計画は施設長、計画作成担当者を中心として、職員からの意見も取り入れ、わかりやすく実践できる介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画は2ヶ月に1回見直しを行う為、1ヶ月に1回のカンファレンス時に時期の来た利用者を順番で見直ししている。現状に即したわかりやすい介護計画作成の為、文面はパソコンでの入力ではなく、手書きでその都度記入できるようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所開設時は、建物の1階でデイサービスを運営していたが、その後廃止するも、デイルーム、リハビリ機器、大浴場、特殊浴槽等、すべての設備がそのままの残されていて、行事・会議等の催しで使用でき、利用者へも活用できている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>一昨年までの事業所の課題としていた医療面の改善に取り組み、連携病院等も増やし、往診等の充実も達成されている。事業所は、医療面でも家族から信頼されるように努力し、かかりつけ医の受診支援も対応している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>状態的には、常時の医療行為のない重度の利用者も受け入れているため、入居時に意向の確認は行っている。状態低下のあるときは、本人、家族の意向を尊重し、可能な場合はできる限り事業所で対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>外部評価等で利用者の居室を見せてもらう時は事前に許可をもらい、また他の来訪者についても利用者のプライバシー等を侵害しないように職員が配慮している。職員の守秘義務は雇用契約書で謳っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の定員が15名（評価訪問時12名在籍）と他の事業所に比べ人数も少なく、その分行き届いたかわりができている。一人ひとりに意向や希望を聞き、ゆっくり対応できている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者が配達し、調理は職員が担当している。利用者は後片付けは行わないが、配膳時に役割を決めて手伝っている。食事中は会話も弾み、和やかな雰囲気ですべてをされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2階・3階ユニット別で隔日の曜日の午後実施されていて、希望者はユニットの違う曜日にも入浴でき、毎日の入浴も可能となっている。夜間入浴の希望は現在のところはない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のボランティア等による、カラオケの指導やメイクアップ、紙芝居・南京玉簾の披露、週1回のリハビリ健康体操・音楽療法等楽しみや気晴らしの支援の提供も行い、屋上菜園では役割や作業活動等も提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	炎天下や著しい寒さ、雨天等の天候時は避けて、体の負担の少ない日にはほとんど毎日利用者の希望に沿って散歩を中心に外出している。海神(わたつみ)神社までが片道15分程度であり散歩のコースとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない実践は危険との隣り合わせでもあるが、そこから必要なケアについて気付くこともあり、玄関の施錠は夜間のみしている。各ユニットの出入り口はオートロック機能になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>開設当初に地元商店街へは働きかけはしたが、今現在はそれ以上の働きかけは行っていない。しかし、地元の警察や消防署へは協力を常々依頼している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各利用者の食事摂取量を毎食記録し、水分摂取の必要な人には記録も取り、健康管理を行っている。献立は食材配食の業者がつくるため、栄養バランスはとれている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2階、3階の食堂から続く居間は、ともに南向きで明るく、遠くに瀬戸内海と明石海峡大橋が望める風光明媚な共用空間であり、ソファも置かれてくつろげる場所である。また、事業所には利用者、家族の談話室等も設置されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>定員15人のホームの為に居室の面積が広く、備え付けのベッドや家具、押入れ、トイレが各居室に設置され、落ち着ける雰囲気となっている。また、床は畳調シートの床材で、そのまま横になってくつろげるような暖か味がある。</p>		

 は、重点項目。